～感謝の気持ちを大切に！～



　みなさんは、日々【感謝】している人や出来事はありますか？
【ありがとう】という言葉を、子どもや家族、そして職場の方に伝えたり、言われたりしていますか？
私は子ども達と過ごす中で、これまでたくさんの【ありがとう】の言葉や【感謝】の気持ちに出会ってきました。
「一緒に遊んでくれてありがとう！」「手伝ってくれてありがとう！」と、目を見ながら伝えてくれる子ども達の姿があります。
恥ずかしくて、なかなか声を発することができなくても、口元を少し動かしながら、気持ちを伝えようとしている子どももいます。
乳児では言葉で伝えることは難しくても、お辞儀をしたり、表情や仕草で気持ちを表したりします。
何気ないことでも、感謝の気持ちを言葉や動作で伝えてもらえると、嬉しい気持ちになりますよね。
「ありがとう」は素敵で大切な言葉です。
ただ、『ありがとうと言える子になる』と同時に、『感謝が育つ』ことは同じでしょうか。
「誰かに助けてもらった」「一緒にやってもらった」「待ってもらった」「困っている時に声をかけてもらった」そんな日々の中にある、小さな「嬉しかった」「大切にしてもらった」という経験が、子どもの心の中に【感謝】が積み重なっていくのだと思います。
手を差し伸べてもらっていた子どもが今度は困っている友達に、進んで「だいじょうぶ？」「どうしたの？」と声を掛けていることがあります。
その姿から、【優しさは、感謝へとつながっていくもの】なのだと見て取れます。
　ご家庭での様子はどうでしょうか。
食事を作ってもらう・洗濯された服を着る・転んだ時に心配してもらう・疲れた時や悲しい時に抱きしめてもらう…
親にとっては当たり前にしていることでも、子どもにとっては、その一つひとつが「自分は大切にされている」という安心感につながります。
その経験が心の糧となり、自然と「ありがとう」という言葉や、誰かへの優しさとして表れていくのだと思います。
【感謝】とは、ただ「ありがとう」と言うことだけではなく、日々の中にある小さな優しさや幸せに気付くこと。
だからこそ私は「ありがとうって伝えるんだよ」と教えるだけではなく、【「ありがとう」と思える経験】や、逆に【「ありがとう」と言われる経験】が増えていくことを大切にしたいと思います。
例えば当番活動では、朝まず皆の前で「今日も頑張ります」と宣言し「よろしくお願いします」と言われ意欲が高まります。
帰りの会では「お当番さんありがとう」と皆に言われ、『人の役に立った』『やってよかった』と自信につながり、自己肯定感も高まります。
保育する中で、いろいろな経験と感情を積み重ねる子ども達に「ありがとうって言ってもらえて嬉しいね」と幸せな気持ちの共感をしています。
周りの人から受けた優しさの体験から「自分も誰かに優しくしたい」「今度は自分が誰かの力になりたい」
という『人を思いやり感謝する気持ち』を、子ども達と一緒に育んでいきます。

(野村)